

# COOP Calendar



July 2021

Vol.166



宮城県生協連「第52回通常総会」(6月22日)

## CONTENTS

### 第52回通常総会終了のご報告と2021年度体制のご案内

県連役員エッセイ……………1  
 宮城県生協連理事 佐藤 良治「創立50周年を迎えて」  
 (松島医療生活協同組合専務理事)

### 宮城県生協連の活動……………2

- ・宮城県生協連第51回総会(2020年度)第2回監事会報告
- ・宮城県生協連第51回総会(2020年度)第5回理事会報告
- ・2021年度夏配達灯油暫定価格変更
- ・宮城県生協連「第52回通常総会」報告
- ・宮城県生協連第52回総会(2021年度)第1回理事会報告

### 会員生協だより……………4

- みやぎ生活協同組合
- 生活協同組合あいコープみやぎ
- 東北大学生協同組合
- 宮城教育大学生協同組合
- 大学生協同組合東北ブロック

### 協同のとりくみ……………8

平和のとりくみ……………9

環境のとりくみ……………10

消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動…11

### NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体

ネットワークみやぎの活動……………12

適格消費者団体 認定NPO法人消費者市民ネットとうほくの活動…13

宮城県ユニセフ協会の活動……………14

公益財団法人 MELONの活動……………15

行事予定……………16

新聞記事紹介……………17

資料……………25

## 第 52 回通常総会終了のご報告と 2021 年度体制のご案内

2021 年 6 月 22 日(火)に開催しました当連合会の第 52 回通常総会は、おかげさまをもちまして、総会のすべての議案が原案通り可決承認されました。私たちを取り巻く情勢は、新型コロナウイルスへの対応や新しい生活様式の定着を含め、いまだに先が読めない不安定な状況でございますが、会員生協間の連帯を強め、組合員の信頼に応えるように取り組んでまいり所存でございます。

なお、2021 年度体制を下記のとおりとしました。今後とも、一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 【2021 年度体制】

役 名	氏 名	所属生協・役職等
会長理事・代表理事	冬 木 勝 仁	みやぎ生協理事長、東北大学生協理事長、東北大学大学院教授
副会長理事	大 越 健 治	みやぎ生協専務理事
副会長理事	若 柳 恒 太 郎	東北大学生協専務理事
専務理事・代表理事	野 崎 和 夫	宮城県生協連専務理事（員外）
常務理事	加 藤 房 子	宮城県生協連常務理事（員外）
常務理事	渡 辺 淳 子	宮城県生協連常務理事（員外）
理 事	石 川 宣 子	みやぎ生協地域代表理事
理 事	伊 藤 恵 仁	宮城県高齢者生協副理事長
理 事 【新任】	尾 本 満 雄	みやぎ仙南農協常務理事
理 事	佐 藤 洋 志	東北学院大学生協専務理事・東北工業大学生協専務理事・尚絅学院大学生協専務理事
理 事	佐 藤 良 治	松島医療生協専務理事
理 事	佐 藤 由 紀 子	弁護士（員外）
理 事	高 橋 千 佳	生協あいコープみやぎ理事長
理事 【新任】	藤 卷 正 之	大学生協事業連合常務理事
理 事	増 田 昌 彦	宮城労働者共済生協専務理事
監 事	小 山 茂 樹	みやぎ県南医療生協専務理事
監 事	熊 沢 由 美	東北学院大学教授（員外）
監 事	田 中 康 治	宮城教育大学生協専務理事・大学生協みやぎインターカレッジコープ専務理事
顧 問	芳 賀 唯 史	宮城県生協連元会長理事、みやぎ生協顧問
顧 問	齋 藤 昭 子	宮城県生協連元会長理事、みやぎ生協顧問

佐久間徹夫理事（みやぎ仙南農協）、佐藤和之理事（大学生協事業連合）は、退任いたしました。この間のご厚誼に感謝いたします。

### 創立 50 周年を迎えて

宮城県生協連理事 佐藤 良治

(松島医療生活協同組合専務理事)



本年、松島医療生活協同組合は創立 50 周年という記念すべき節目の年を迎えます。幾度も苦難や、社会環境が目まぐるしく変化するこの時代に、半世紀という長い歴史を歩んでこられたのは、ひとえに皆様方のご支援の賜と深く感謝し厚くお礼申し上げます。

診療所の開設は、地域の人々の悲願でした。松島海岸地域の人々とそれを支援する人々が、何度も集まって熱く語り合いました。坂総合病院の協力を受けて、「無料血圧測定会」を町内各地で実施し、「診療所を自分たちの手でつくろう」という運動に発展し、1971年に松島医療生協の設立を決定、現在地に松島海岸診療所を建設しました。

地域の人々の悲願であり、協力によって誕生した松島医療生活協同組合は、50年間という時代の移り変わりと共に、幾多の困難がありました。

特に東日本大震災では職員・利用者さんが亡くなり、施設・医療機器も壊滅的な被害を受け、事業継続は困難と思われました。

そうした中、「地域の健康を守る松島医療生協の灯は消さない」という熱い思いで、たくさんの支援をいただきました。

幾多の困難や甚大な被害を受けても乗り越えられたのは、宮城県生活協同組合連合会、日本医療福祉生活協同組合連合会、全日本民主医療機関連合会からの多大なる支援と、組合員さんの協力で松島医療生協を支えていただいたおかげです。

組合員さんは事業継続が困難になった時、脱退しないばかりか出資金を増資していただきました。組合員さん宅に訪問した時、沢山の激励の言葉と勇気をいただきました。「何としても再建復興しなくてはならない」と、理事・職員の心がひとつになりました。

医療生協は一般企業とは違いますが、「企業寿命 30 年説」がある中で 50 周年を迎える事が出来たのは、支援していただいた皆さんの大きな力によるものです。

感謝の想いを常に忘れず、医療生協の施設のない地域（支部）でも、「健康チャレンジ」「医療生協らしい地域包括ケア」に取り組み、医療・介護・福祉の事業と運動を通して、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けたい」という願いを、支えていただいた皆さんと共に取り組んでいきたいと思えます。



## ● 宮城県生協連第 51 回総会（2020 年度）第 2 回監事会報告

第 2 回監事会は、5 月 18 日（火）午前 11 時 30 分よりフォレスト仙台 5 階会議室において開催し、監事 3 人（内、1 人 WEB 参加）、理事 3 人、事務局 2 人が参加しました。

小山茂樹監事会議長により、議事がすすめられました。

野崎和夫専務理事より、2020 年度（2020.4.1～2021.3.31）決算関係書類及び理事の業務執行状況等について報告があった後、

①決算関係書類及び事業報告書並びにこれらの附属明細書の監査と監査報告書作成の件、②2021 年度監事報酬の件、③総会議案書調査の件について、協議、実施しました。

## ● 宮城県生協連第 51 回総会（2020 年度）第 5 回理事会報告

第 5 回理事会は、5 月 18 日（火）午後 1 時 30 分よりフォレスト仙台 5 階会議室において開催され、理事 13 人、監事 3 人、顧問 2 人が参加しました。（内、理事 3 人、監事 1 人が WEB 参加）

議長に冬木勝仁会長理事を選任し、議事に入りました。

### 【議決事項】

第 52 回通常総会議案決定の件について、野崎和夫専務理事より提案があり、可決承認されました。

### 【協議事項】

東京電力福島原子力発電所事故を受けての放射能汚染、原発問題等への取り組み方針の改訂及び福島原発処理水放出に関する対応の件について野崎和夫専務理事より、第 42 回宮城県生協組合員集会開催準備の件について加藤房子専務理事より提案があり協議しました。

### 【専務理事専決事項の報告】

2020 年度冬灯油精算価格決定の件、2021 年度夏灯油暫定価

格決定及び変更の件について、野崎和夫専務理事より専決したことの報告があり、全員異議なく了承しました。

### 【報告事項】

1. 東日本大震災復旧・復興関連、新型コロナウイルス感染症に関連する取り組み及び新型コロナの影響が大きい大学生協の経営状況について、出席した理事より報告がありました。
2. 2020 年度第 2 回監事会報告について田中康治監事より報告があり、全員異議なく了承しました。
3. 協同組合こんわ会の活動、NPO 法人消費者市民ネットワークほくの活動、その他について野崎和夫専務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。
4. 平和・憲法 9 条関連、消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動、消費税率引き上げをやめさせる活動等について加藤房子専務理事より報告があり、全員異議なく

了承しました。

5. NPO 法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動について渡辺淳子専務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

### 【文書報告事項】

生協連活動報告、行政・議会関連報告、各種委員・共催・後援依頼・広告協賛等について、文書により報告があり、全員異議なく了承しました。

### 《2021 年度夏配達灯油暫定価格変更》

6 月 7 日(月) 配達分から「お任せ給油暫定価格を 1% 当り税込 2.0 円(1 缶税込 36.0 円)」値上げ変更し、さらに、7 月 12 日(月) 配達分から「お任せ給油暫定価格を 1% 当り税込 5.0 円(1 缶税込 90.0 円)」値上げいたします。

(税込)

配達期間	1 缶 18%	1%
4/26～6/4	1,656 円	92.0 円
6/7～7/9	1,692 円	94.0 円
7/12～9/24	1,782 円	99.0 円

※原油価格上昇にともない、国内卸価格が前回の夏灯油暫定価格値上げ提案時より、1% 当り 4.5 円(税込 4.95 円)の値上がりとなっています。



### ● 宮城県生協連「第52回通常総会」報告

6月22日(火)午前10時30分よりフォレストホールにて、「第52回通常総会」を開催しました。本人出席12人、書面議決書出席31人、合計43人の代議員が出席しました。コロナ禍ということもあり、規模を縮小し時間も短縮して開催しました。

佐藤洋志理事より成立が宣言され、議長に宮城労働者共済生協の代議員佐々木雅彦さんが推薦、選出されました。

はじめに、冬木勝仁会長理事から挨拶がありました。

議案は、第1号議案「2020年度事業報告承認の件」、第2号議案「2020年度決算関係書類等承認の件」、第3号議案「定款の一部変更の件」、第4号議案「会費規約の一部変更の件」、第5号議

案「役員補充選任の件」、第6号議案「2021年度役員(理事・監事)報酬決定の件」、第7号議案「2021年度事業計画および予算決定の件」を、野崎和夫専務理事から一括して提案しました。

会員生協4人の代議員から、発言がありました。みやぎ生協の藤本富江代議員から「西多賀子ども食堂への支援について」、生協あいコープみやぎの藤田紀子代議員から「『2025年ビジョン』と地域循環型畜産について」、松島医療生協の三浦久恵代議員から「健康チャレンジの取り組みについて」、東北大学生協の佐藤優之介代議員から「コロナ禍で工夫した事業活動と組織活動について」発言がありました。

その後、採決に入り、提案さ



冬木勝仁会長理事の挨拶



採決の様子

れた全議案が満場一致で可決されました。みやぎ生協の吉原直美代議員より総会決議が提案され、満場の拍手で採択されました。(後掲)

閉会挨拶を、若柳恒太郎副会長理事が行い終了しました。

### ● 宮城県生協連第52回総会(2021年度)第1回理事会報告

第1回理事会は、6月22日(火)午前11時50分からフォレストホールにおいて開催し、理事14人、監事3人、顧問1人が参加しました。(内、理事2人、監事1人がWEB参加)

#### 【議決事項】

①2021年度役員報酬額決定について、②2021年度宮城県生協連会費額決定について、野崎和夫専務理事から提案があり、承認可決しました。なお、新型コロナウイルス感染症により事

業影響の大きい会員の会費は、減免することとしました。

#### 【報告事項】

1. 第42回宮城県生協組合員集会開催準備報告について加藤房子常務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。
2. アルプス処理水海洋放出に反対する署名活動報告について、野崎和夫専務理事から報告があり、全員異議なく了承しました。
3. NPO 法人介護・福祉サービ

ス非営利団体ネットワークみやぎの活動報告について渡辺淳子常務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

#### 【文書報告事項】

行政・議会関連報告、各種委員の推薦、共催・後援依頼、広告協賛等について文書により報告があり、全員異議なく了承しました。

## 会員生協だより

### みやぎ生協

#### ● 涌谷町と「災害時における応急生活物資の供給協定」を締結

みやぎ生協は「誰もが安心してくらす地域づくり」に向け、涌谷町と「災害時における応急生活物資の供給協定」を締結し、5月13日（木）に涌谷町役場で締結式を執り行いました。

この協定は、涌谷町内に地震、風水害、その他自然災害が発生した際、被災者に対し迅速かつ円滑に物資を供給し、住民生活

の安定を図ることを目的としています。

災害時には、涌谷町の要請を受け、おにぎりやパンといった食料品のほか、日用品などもお届けします。

みやぎ生協の県内自治体との災害時の物資供給協定は、今回の涌谷町との締結で 25 自治体目となります。



㊦大越専務理事 ㊦遠藤釈雄町長

今後誰もが安心して暮らす地域づくりを推進することを目的に、多くの自治体との協定締結を目指していきます。

#### ● 「第40回通常総代会」

6月16日（水）「第40回通常総代会」を、みやぎ生協文化会館ウィズにて開催しました。新型コロナウイルス感染拡大の



採決の様子

影響を受け、実出席 17 人、書面出席 1,032 人、合計 1,049 人の参加でした。

総代会に先立ち、5月26日～6月3日にかけて、宮城県内（福島県内は感染状況から中止）45カ所で地区別総代会議を開催し、642人の総代が参加しました。

また、会議参加に不安のある

方を考慮し、資料配布と共に総代会議案書の内容をまとめた動画を YouTube で総代の皆さんへ配信しました。

総代会では、5つの議案について採決され、いずれも賛成多数（定款変更は2/3以上の賛成）で可決承認されました。

（機関運営部 河端真唯）

#### ● 「めぐみ野」梨の生産者に支援金をお渡ししました

黒星病の発生等で 2020 年度の収穫量が前年の 38%に落ち込んだ「めぐみ野」梨の生産者を支援するために、4月1日から4



生産者応援募金贈呈式

月30日にかけてメンバー（組合員）や職員に募金を呼びかけました。寄せられた募金は903,501円となり、6月23日（水）JAみやぎ仙南角田営農センターで募金目録贈呈式を開催しました。

JAみやぎ仙南角田梨部会部会長の小野寺喜一さんは、「今年は4月の異常な低温で、霜と

凍結による被害が大きくなってしまった。キズなどがある商品を含めても、例年の2割程度しか出荷できないかもしれません」と話されました。

「めぐみ野」梨の生産者にとって2年続きで厳しい状況の中、今後も支援活動を続けていきます。

（生活文化部課長 本間賢二）

### みやぎ生協

#### ● 緊急学習会「宮城県の水道民営化問題について考える」

5月28日（金）みやぎ生協文化会館ウィズを会場にオンラインを併用して開催をし、急な呼びかけにもかかわらず40人の方に参加していただきました。

6月議会で水道の運営権を民間に譲渡するという議案が提出されようという情勢の中、県民として何が問題なのかを学び、自らの地域や暮らしについて考えるきっかけとすることを目的に開催しました。

東日本大震災復旧・復興県民センター事務局長の小川静治さんと、命の水を守る市民ネットワーク・みやぎ代表の佐久間敬子弁護士を講師に迎え、水道事

業民営化の問題点について学習しました。民営化すればコスト削減できるという安易な選択を行っているということや、水質が維持されるのか不安との感想が多く寄せられました。

コロナ禍の中で世の中がそれどころでない状況のもと、この問題を知らぬ間に押し通そうとしている状況であることが分かり、黙ってはいけないうこと、十分に情報を伝え、議論を尽くす必要性がある問題であることを教えていただきました。

参加したメンバー（組合員）は、なんとかしなければいけないと



問題点や暮らしへの影響など学習

の思いが広がり、その場で呼びかけられた署名に取り組み、後日、約350筆を送付しました。

生命の源である水を守ること、暮らしをよりよいものとするために他人事としてはいけない問題であるということが確認できた学習会でした。

（生活文化部課長 池町江美子）

### 生協あいコープみやぎ

#### ● オンライン学習会「“雑貨”から見えてくる持続可能な未来」

4月14日（水）エシカル&エコロジーをテーマにしたナチュラルな生活雑貨を取り扱っている「生活アートクラブ」の富士村夏樹社長を講師に迎え、オンライン学習会を開催しました。

プラスチックの環境汚染や、除草剤や防虫剤の人体への影響など、気にはなるけど消費者としてどうすればよいのか分からない、それを解決するヒントを取り扱う商品を通してお話しいただきました。

富士村さんの冗談を交えた、でもとても大切な環境に対する想いを楽しく聞き、2時間があったという間に感じられました。

プラスチック汚染の問題だけでなく、日本の林業を守るためにも「木」を利用しようというお話、中でもオーガニックコットン製品（商品）を包装している一見プラスチックに見える包材が、木材パルプでできているというお話に驚くとともに、「生活アートクラブ」の取り組みに

とても感心しました。

終了後に、参加者から「使ってみよう」「購入します」など

の声が多く寄せられました。

自分たちが出来ることを考えながら、商品を選んでいけたらと思います。

（理事 佐藤あきな）



生活アートクラブ  
社長 富士村夏樹さん

### 東北大学生協

#### ● 東北大学×東北大生協「学生応援100円朝食」の取り組み

新型コロナウイルスによる影響でアルバイト収入が減るなど、経済的に困難な状況にある学生の皆さんを支援するとともに、食習慣を整えて元気に学修に励んでいただきたいとの思いから、「100円朝食」サービスを東北大学と東北大生協が協力して実現しました。

第1弾は、5月10日（月）～21日（金）の平日に、通常380円で提供している定食を450食限定で100円で提供しました。

通常の朝食営業では150人程度ですが、100円朝食の実施により約3倍の方にお越し頂きま

した。この取り組みは、テレビや新聞などの各種メディアに多く取り上げていただきました。

報道をご覧になった卒業生から、群馬県産三元豚をご寄付いただくこととなり、6月14日（月）から5日間、第2弾として『学生応援100円朝食～豚肉ウィーク～』を実施することができました。

アンケートでは、普段朝食は食べていないが100円朝食があったので食べるようになった方も多く、「100円朝食のおかげで早起きする習慣が付き、課題が順調に終わって1日に余裕が



100円朝食に並ぶ多くの学生たち

できました」という嬉しい声も頂いています。

今後も東北大学と協力しながら、学生の食を一番に支えられる存在でいられるよう尽力してまいります。

（専務理事 若柳恒太郎）

### 宮城教育大学生協

#### ● 総代会で「平和企画」を実施

5月26日（水）に行なわれた「総代会」の当日企画として、宮城教育大学生協学生委員会平和部局が中心となり「平和企画」を行ないました。

生協学生委員会内で行なった平和に関して学ぶ機会である

「平和学習会」の内容を、組合員にも知ってほしいという思いのもと、その内容をメインに、ポスターや動画を展示しました。

「平和企画」では、経口補水液ブース、フェアトレードブース、命のメジャーブースの3つ

のブースに分けて展示を行ないました。またそのポスターの中で、自分たちにできることとして、ユニセフ募金を例として挙げました。組合員の中に

はポスターを見て、募金の簡単さ、重要さに気づき募金をしてくれる人もいました。

コロナ禍での対面企画ということであまり多くの参加は得られませんでした。参加された皆さんが平和に関して興味を持ち、行動してくれるきっかけになったと思います。また、今回の企画を来年以降も改善し実行していく計画です。

（学生委員会 泉賢太）



▲参加者から募金を集めました。◀ユニセフについての説明を見る組合員



## 大学生協東北ブロック

### ● ユニセフ国際理解学習会「The future we want～私たちが望む未来～」に参加して

5月8日(土)宮城県ユニセフ協会で開催したケンタロ・オノさんのオンライン学習会に、7人の学生が参加しました。

大学生協では、弁当容器はリサイクル容器を使用したり、食堂の割箸も間伐材を利用したりと、環境負荷を減らす取り組みを行っています。

参加した学生たちも、大学内で啓蒙活動を行っています、環境負荷を減らすことがなぜ必要なのか、普段の生活の中では

実感しづらいことも事実です。今回の講演学習会は、自分たちの意識を変えるべきと感じる

ことができた会でした。今後も、多くの学生が参加できる機会を設けたいと思います。

#### <参加した学生の感想>

- \* CO<sub>2</sub>の排出等、環境への悪影響によって失われていく命に関して着目されがちだが、社会が豊かになったおかげで救われた命はどれくらいあるのだろうか？少なくとも日本で豊かに暮らしている自分たちは、救われた命に当たるはず。自分たちが救われた命だということを正しく自覚することで、『もっと救うべき命もある』ということに気づけるのでは。(岩手大)
- \* 将来自分たちの国や地域がなくなるかもしれない未来を、子供たちに見せるのですか」という言葉が、心に響きました。(山形大)



△学習会のチラシ

### ● コープフードバンクの協力でコロナ禍の学生へ支援物資を配布

宮城県には8つの大学生協があります。それぞれの大学生協では、日常的に事業を通して大学生生活支援を行っています。大学生協では、アルバイトができず収入が減少し困っている大学生の支援ができないかと、昨年より考えていました。

コープ東北事業連合の運営するコープフードバンクに七十七

銀行から災害備蓄食料品が6月に寄せられました。

コープ東北事業連合と宮城県生協連の協力のもと、コープフードバンクに寄せられた災害備蓄食料品や他の飲料、マスク、生理用品等を、大学生への支援物資として使用させていただくことになり、大学生支援に配布する計画を立てることができま

した。3,000セット分の災害備蓄食料品等の配布を、それぞれの大学と協力しながら7月中に実施します。宮城大学生協では、先輩学生が後輩に配布する計画を立てています。東北工業大学生協では大学にご協力いただき、学内のサポートオフィスで配布することになりました。

コロナ禍で大学生は、非常に苦しい生活を送っています。オンライン授業でサークル活動はできず友人が作りづらく、アルバイト先を見つけるのも困難な状況です。地域の企業にもご協力を頂きながら、今後も大学生を支援していきたいと思います。(事務局長 柏倉欣弥)



学生へ提供される食品

## 協同のとりくみ

### ●「アルプス処理水海洋放出に反対するオンライン署名」に取り組んでいます

みやぎ生協・コープふくしま（正式名：みやぎ生協）、宮城県漁業協同組合、宮城県生協連、福島県生協連の4者は、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴うアルプス処理水の海洋放出を政府が決めたことに対し、豊かな海を次世代に引き継ぐため、関係者の理解が得られる別の方法で処理することを求めるオンライン署名を、宮城・福島


両県の県民、及び広く国民へ呼びかけることとしました。

東京電力福島第一原子力発電所アルプス処理水の海洋放出問題は、安全性の担保、国民的理解、国際社会への理解醸成、風評対策が大きな課題として残ったままです。漁業への影響はもとより、地産地消活動、地域経済への重大な影響が懸念され、震災復興のために払われてきた

10年の努力が水泡に帰す大きな懸念があります。

豊かな海を次世代に引き継ぐためにも、アルプス処理水は海洋放出によらず、関係者、国民の理解が得られる別の方法で処理することを求めています。

6月8日（火）からオンライン署名サイト「change.org」上で、賛同を呼びかけています。

実施期間	○第1次集約：9月30日(木) ○第2次集約：11月30日(金) ※以降も継続を予定しています。
要請内容	東京電力福島第一原子力発電所のトリチウム等を含むアルプス処理水は、海洋放出を行わず、関係者、国民の理解が得られる別の方法で処理すること。（後掲）
要請先	内閣総理大臣 経済産業大臣 東京電力ホールディングス株式会社
署名サイト	<b>change.org</b> <a href="https://www.change.org/Save-the-Ocean-fm">https://www.change.org/Save-the-Ocean-fm</a>  ◀スマホはコチラから
呼びかけ団体	みやぎ生協・コープふくしま 宮城県漁業協同組合 宮城県生活協同組合連合会 福島県生活協同組合連合会



みんなの思いが海を守る

**「アルプス処理水海洋放出に反対する署名」に賛同をお願いします**

**東京電力福島第一原子力発電所のアルプス処理水は、海洋放出を行わず、別の方法で処理することを求めます。**

2011年以降、政府は福島第一原子力発電所から発生している放射性廃棄物を処理するアルプス処理水の海洋放出を決めました。海洋放出に伴い、漁業者や福島県民をはじめ国民の反対や懸念の意思が伝わった。関係者や国民の理解が得られる別の方法で処理することの求め、漁業者や国民の理解が得られる別の方法で処理することの求めです。

アルプス処理水は、原発事故で発生した原子力から発生している放射性廃棄物を処理するための、通常の処理方法から放出されているトリチウム等の放射性物質です。安全性について、安全性の担保、国民・国際社会への理解醸成、風評対策が大きな課題として残ったままです。漁業への影響はもとより、地産地消活動、地域経済への重大な影響が懸念され、震災復興のために払われてきた

10年の努力が水泡に帰す大きな懸念があります。

豊かな海を次世代に引き継ぐためにも、アルプス処理水は海洋放出によらず、関係者、国民の理解が得られる別の方法で処理することを求めています。

6月8日（火）からオンライン署名サイト「change.org」上で、賛同を呼びかけています。

呼びかけ人（2021年6月8日）  
みやぎ生協・コープふくしま、宮城県漁業協同組合、宮城県生活協同組合連合会、福島県生活協同組合連合会

署名実施期間  
第1次集約 2021年9月末 第2次集約 2021年11月末 以降も継続を予定しています。

**この署名運動は、主にオンライン署名での参加を呼びかけています。**  
署名の方法については裏面をご覧ください。

<https://www.change.org/Save-the-Ocean-fm>

みやぎ生協・コープふくしま 福島県本部内  
「アルプス処理水海洋放出に反対する署名」推進事務局  
〒9608566 福島県福島市善合字清水7番地  
コープふくしまいずみ店2F Tel.024-557-1181

「アルプス処理水海洋放出に反対する署名」運動にご賛同いただき、署名運動へのご参加ご協力をお願い申し上げます。なお、この署名運動は主にオンライン署名での参加を呼びかけています。ご支援、ご協力をお願いします。

生協は、「平和とよりよき生活のために」をスローガンに掲げています。唯一の被爆国の国民として核兵器廃絶を訴えるとともに、戦争放棄をうたった憲法 9 条を含めた日本国憲法のよさと大事さを学び、話し合い、多くの人々が平和を守るネットワークへ参加する活動を広げていきます。

### 核兵器廃絶ネットワークみやぎ

#### ● 「核廃絶 Peace Wave in みやぎ」開催

2017年7月7日国連本部で開かれた交渉会議で、人類史上初めて核兵器を違法化する「核兵器禁止条約」が122カ国の賛成で採択され、以降50カ国が批准し今年1月22日に発効しました。

核兵器の「開発・実験・製造・備蓄・移譲使用・使用すると威嚇」などあらゆることを禁止しており、核兵器廃絶への大きな期待が寄せられています。2月19日時点で、86カ国が条約に署名し、54カ国が国内法を整備して条約を批准しています。

唯一の戦争被爆国である日本は、禁止条約が発効した今も反対を言い続けており、世界から批判が起きています。日本の参加は、核兵器廃絶への大きな前進につながります。

2017年3月から活動してきた「ヒバクシャ国際署名連絡会宮城」は、1月22日の核兵器禁止条約発効という記念すべき日に、メモリアルイベントを行い、約4年間の活動を終了しましたが、核兵器廃絶と被爆者支援を今後の活動とすることとし、会の名称を「核兵器廃絶ネットワークみやぎ（略称：核廃絶ネット）」に変更し、日本被団協の『日本政府に核兵器禁止条約への署

名・批准を求める署名』に取り組むことにしました。

安全保障のためには、核兵器廃絶が一番です。核兵器禁止条約の実効性を高めるために日本政府が主導的な役割を果たすことを求めることを、多くの市民に広めるため「核廃絶 Peace Wave in みやぎ」を開催しました。

5月22日（土）元鍛冶丁公園において、雨が心配されるような天候でしたが奇跡的に雨も上がり、「ミニ集会」を開催し約50人が参加しました。

はじめに、主催者を代表し、木村緋紗子代表が開会あいさつを行い、「被爆者が生きているうちに、被爆国日本として恥じることがないように、禁止条約を批准し、核なき世界を皆様と共有できるよう活動していきたい」と述べました。

続いて政党からの挨拶があり、立憲民主党の岡本あき子衆議院議員のメッセージを佐々木ゆきえ代表理事が代読しました。次に、日本共産党のふなやま由美県委員会副委員長から挨拶をいただきました。

核兵器廃絶への決意表明を、



集会の様子 ㊦木村緋紗子代表



Peace パレード出発



署名を呼びかける参加者

平和友好祭実行委員会の大沼悦子事務局長、民主青年同盟県委員会の菊地幹雄委員長が、力強くスピーチしました。

集会アピールを採択し、集会を終了しました。

引き続き、仙都会館までPeaceパレードを行い、その後、平和ビル前で16人が参加して署名活動を行いました。55筆を集約しました。

（常務理事 加藤房子）

# 環境のとりくみ

生協の環境活動は、生協組合員の活動や事業における取り組みを通して、環境負荷の軽減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献していきます。

## みやぎ生協

### ● 「こ～ぷの森荒浜」 観察体験会 ～仙台市荒浜で海岸林と海洋ごみについて考えてみよう～

「こ～ぷの森荒浜」観察体験会～仙台市荒浜で海岸林と海洋ごみについて考えてみよう～を5月22日(土)に大人16人、子ども1人、講師2人の参加で開催しました。

午前には講師の話の聞きながら、2019年にクロマツを700本植えた「こ～ぷの森荒浜」の木の生育状況や森の手入れ作業などについて学び、「こ～ぷの森」の活動や海岸林の役割などについて、

理解を深めました。

昼食をはさんで午後は、近くにある荒浜海岸で、今問題になっている海洋ごみの現状を知るために、海岸のごみ拾いを体験し、その後、参加者が集まって、どんなごみがあったのか、気づいた事などを、参加者で共有しました。海洋ごみが生物へ悪影響を及ぼしていること、自分たちがどのようにしたらプラスチックごみを減らせるかを考える

良い機会になりました。

(生活文化部 千葉悠菜)



2019年に植樹した苗を観察する様子

海岸のごみを拾い、調べる親子



## 生協あいコープみやぎ

### ● ゲノム編集作物の表示を求める署名活動

昨年末、日本初のゲノム編集食品「高GABAトマト」が、商品流通される前の宣伝として苗

を消費者に無償配布するという発表がありました。

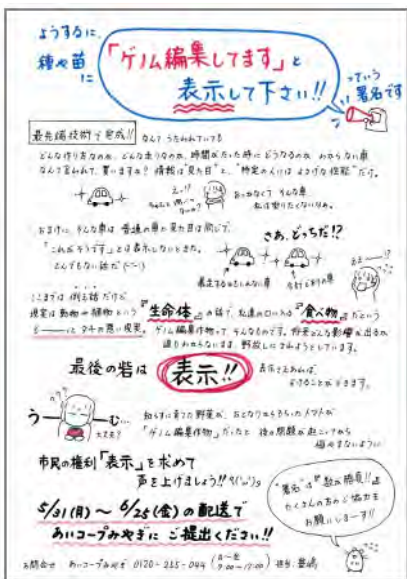
輸入されている遺伝子組み換えナタネは、日本では栽培が禁止されているにもかかわらず、輸送中のこぼれ種から自生し、交雑により遺伝子汚染が確認されています。

同じことがゲノム編集作物でも起こり得るのに、ゲノム編集作物には「安全審査」も「届け出の義務」もなく、「表示」すら行われぬとは信じられません。

遺伝子組み換え作物もゲノム編集作物も、外見からは見分け

がつかず、一旦人の手を離れて、交雑や繁殖で自然界に広がりをはじめれば汚染を元に戻すことは不可能です。

何としても止めたい、でも流通はもう始まってしまおう前に「ゲノム編集作物」であることを知りうる最後の砦として「表示を求める」ための署名活動を展開しています。たくさんの方に興味をもってもらい、ご協力をお願いしたいです。未来の環境が、取り返しがつかなくなる前に。(理事 辻朗子)



イラスト入りで署名を呼びかけ

## 消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動

「消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城(略称:消費税ネット)」は 2003 年に設立され、消費税率引き上げに反対する一点で集まった宮城県内の事業者・消費者の団体・個人のネットワークです。前身は、1978年に同じように商業者団体、市民・消費者団体など多数の幅広い団体が集って結成した「一般消費税を止めさせる宮城県民会議」です。会員数は、団体 35、個人 64 です。(2021 年 3 月現在)

### ● 「2021 年度第 19 回総会 & 記念講演」

6 月 23 日(水) フォレスト仙台 2 階第 7・10 会議室において、消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の「2021 年度第 19 回総会 & 記念講演」が開催され、消費者団体、宮商連、生協などの関係者、事業者、一般市民など来場参加が 37 人、オンライン参加が 19 人でした。

三戸部尚一代表世話人(宮城県商工団体連合会会長)の開会挨拶後、大越健治代表世話人(みやぎ生協専務理事)を議長に、「第 19 回総会」がすすめられました。野崎和夫事務局長(宮城県生協連専務理事)から、第 1 号議案の 2020 年度活動報告・決算承認の件、第 2 号議案の 2021 年度活動方針・収支予算決定の件、第 3 号議案の役員選任の件の提案がありました。その後、全議案が承認されました。総会アピール(後掲)の提案を、仙台民商婦人部副部長の泉田みつ子さんが行い採択されました。



開会挨拶の三戸部尚一代表世話人

記念講演は講師に東京大学名誉教授の醍醐聰さんをお迎えし、『教えてダイゴ先生♪消費税の疑問にお答えします! Part2』と題して、オンラインにてご講演いただきました。

「コロナ禍が長期化する中で、困窮世帯の生活支援、休業の補償に必要な財源を、応能原則にもとづいて確保することが急務となっている。NPO 等の食料支援に長い列ができる一方、富裕層の高額消費が堅調となっているなど、コロナ禍で消費の格差が広がっている。格差是正、多くの世帯・個人の生計支援のための消費税減税が急務となっている。社会保障のために消費税増税分が当てられてきた。社会保障の財源に逆進性のある消費税を当てることは、税の集め方・使い方の組み合わせとして最悪。事業者の中には、仕入れ段階で負担した消費税を販売の段階で想定通りに買い手に転嫁することができず自腹にしたり、下請け事業者の工賃値切りや従業員の賃金の削減など、誰が負担するのかわからない税金になっている」と消費税の問題点をお話されました。

また、日本の社会保険料負担の逆進性について、仏・独で、



記念講演の様子

近年、保険料に代えて租税(「社会一般税」と呼ばれる富裕層への増税)が社会保障財源として拡充されていること、米でもバイデン政権が富裕層増税案を打ち出していることを例にあげ、社会保障の財源を国民負担(窓口負担増や保険料引き上げ)のみで検討し、増税という消費増税という日本の議論のおかしさを資料に基づき指摘されました。法人税の増税と一定額以上の純資産を保有する富裕層に、低率の課税をする「富裕税」の新設をお話されました。

消費税のもつ基本的な問題点を学習し、消費税率引き上げ反対の運動をすすめていくことを確認できた「総会 & 記念講演」でした。佐久間敬子世話人(仙台弁護士会・弁護士)が閉会挨拶を行い終了しました。

(事務局 加藤房子)

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。私たちは知識と力を合わせ、良質な介護・福祉サービス提供と健全な事業運営のために、いっそうの研修にはげむとともに、情報を共有し、ネットワークをひろげます。もって子どもから大人まですべての人の人権が尊重されるまちづくりと、地域住民の福祉向上に資することをNPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ(略称:介護・福祉ネットみやぎ)の目的としています。会員数は正会員18団体、個人正会員18人、団体賛助会員4団体、個人賛助会員64人です。(2021年6月現在)

## ● 「2021年度総会&記念講演」

介護・福祉ネットみやぎ「2021年度総会」が、6月17日(木)フォレスト仙台フォレストホールにて、正会員36人(本人出席20人、書面議決による出席16人)の出席で開催されました。内館昭子理事長の開会挨拶の後、宮城県並びに仙台市からのご祝辞を紹介しました。

第1号議案から第4号議案について渡辺淳子理事から一括して提案を行い、全議案とも賛成多数で承認されました。議案採択に引き続き、総会決議(案)が提案され、出席者全員の拍手で採択されました。(後掲)

総会に先立ち、総会記念講演

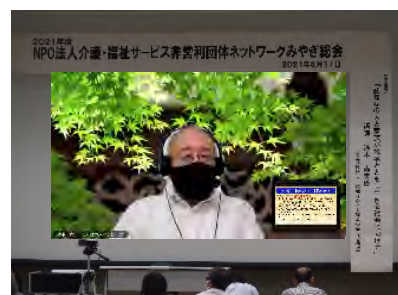
内館昭子  
理事長の  
挨拶



として『認知症の人と家族が地域とともに生きる社会に向けて』と題し、公益社団法人認知症の人と家族の会代表理事の鈴木森夫さんよりご講演いただき、オンライン視聴も含め100人以上が参加しました。

わが国の認知症高齢者の数は、2025年には約700万人と65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが見込まれています。今や認知症は誰もがなり得るものであり、多くの人にとって身近なものとなっています。認知症の人の意思が尊重され、認知症の人やその家族が地域のよい環境で自分らしく暮らし続けるためには、認知症への社会の理解を深め、同じ社会の一員として地域をともに創っていくことが求められます。

講演では、40年もの長きにわたり認知症の人と家族のくらし



オンラインによる記念講演の様子

の向上のため歩まれてきた歴史や国への介護保険制度等に関する政策提言や社会全体への働きかけについてお話いただきました。また、電話相談活動を通して、ウィズコロナ時代の高齢者介護の現場で起きている課題について、高齢者の権利擁護の視点からご講演いただきました。

今回の講演を通し、介護者と要介護者のケアを重視する社会となることが当事者の尊厳が守られ、高齢化社会でも安心して暮らしていけることにつながると認識できた貴重な機会となりました。

## ● 新型コロナウイルスワクチンの優先接種体制の構築を求める要望書提出

ワクチン接種が進みつつある中、優先順位を在宅系社会福祉サービス従事者に拡大する体制の構築は急務です。介護・福祉ネットみやぎでは、介護・福祉現場の声をお伝えするとともに、

介護・福祉サービス利用者や介護・福祉従事者の安全と安心につながる支援が早急に図られるよう、『居宅サービス介護従事者、障がい者福祉サービス従事者、保育従事者の新型コロナウイルス

ワクチンの優先接種体制の構築を求める要望書』を、6月4日(金)に担当部局を通じて、宮城県知事及び仙台市長宛に提出しました。(後掲)

(事務局長 渡辺淳子)

## 適格消費者団体 認定NPO法人消費者市民ネットとうほくの活動

認定NPO 法人消費者市民ネットとうほく 略称 ネットとうほくは、消費者被害の未然 拡大防止及び救済のため、消費者や消費者団体 関係 諸機関・消費者問題専門家等と連携し、各種消費者被害の調査 研究 情報収集、是正申入等の活動によって、消費者全体の利益擁護、消 費者の権利の確立に寄与することを目的に活動している内閣総理大臣認定の適格消費者団体です。

### ● 「2021 年度通常総会・総会記念企画」

6月19日(土) 仙台弁護士会館4階ホールにおいて「2021年度通常総会」が開催されました。

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から規模を縮小し、感染リスク低減のため書面中心での総会とし、正会員99人(本人出席18人、書面議決書61人、表決委任20人)の参加で開催されました。

司会の男澤拓弁護士より成立が宣言され、その後、吉岡和弘理事長から挨拶がありました。議長には、山田いずみさん(仙台弁護士会所属)が選出されました。

議案は第1号議案：2020年度事業報告承認の件、第2号議案：2020年度決算報告承認の件、第3号議案：2021年度事業計画決定の件、第4号議案：2021年度活動予算決定の件、第5号議案：

定款の一部変更の件、第6号議案：役員選任の件、第7号議案：議案決議効力発生について、小野寺友宏理事から一括して提案を行いました。続いて、監査報告が車塚潤さんよりあり、全議案とも過半数で採択承認されました。

総会終了後、総会記念企画として、適格消費者団体として初めての提訴となった(株)防災センターとの差止訴訟判決について鈴木裕美理事より報告しました。

その後、「オンラインリレー報告」を行いました。ネットとうほく検討委員会青森検討グループの花田勝彦弁護士より青森県消費者協会事例検討委員会の活動について、3月31日に発刊した「先端消費者法問題研究第2巻」



採決の様子

について中里真理事(福島大学准教授)が紹介、岩手県消費者団体連絡協議会事務局長でネットとうほく理事の磯田朋子さんより2020年度の岩手県消費者団体連絡協議会の主な取り組みについて、(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント相談員協会東北支部支部長でネットとうほく理事の大西二郎さんからNACSの活動について報告しました。

### ● 2021 年度「第1回ネットとうほく消費者被害事例ラボ」～コロナの感染流行と消費者問題～

5月13日(木)、2021年度「第1回消費者被害事例ラボ」が開催され、コロナの感染流行と消費者



問題をテーマに、山崎暁彦福島大学准教授が解説しました。オンラインを含む

22人が参加しました。

新型コロナ感染流行が続いている中、自然災害等発生時の消費者問題状況と比べ、人の移動や生活に伴う制限が続き、旅行や結婚式等の実施が不可能となり、キャンセルをせざるを得ない場合、従来の自己都合によるもののキャンセルとして判断をするのか等

の問題が発生していると報告しました。

その後の意見交換では、旅行のキャンセルについてどういった解決が図られるか、震災時と比較すると、コロナ禍特有の問題、事情が分かるかもしれない等の意見が出されました。

(事務局 金野倫子)

## 宮城県ユニセフ協会の活動

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。2011年4月1日より「公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織 宮城県ユニセフ協会」と名称が変更になりました。県内唯一の団体としてユニセフの広報・啓発・募金・学習支援などを活発に展開しております。(設立:1995年 会員数:一般・学生183人 団体7)

### ● ユニセフとSDGs～子どもは保護の対象だけでなく重要な変化の担い手～

ユニセフは、すべての子どもに公平な機会を提供し、もっとも取り残されている子どもたちに焦点をあて、世界の子どもたちの権利の実現と健やかな成長のための活動を行っています。

ユニセフの活動のすべての分野は、密接にSDGsと関わっています。

SDGsには子どもに関連する

多くの課題があります。SDGsがめざす世界は『子どもたちに投資し、すべての子どもが暴力や搾取から解放される世界』とされています。子どもは、守られるべき『脆弱な人々』にも含まれていますが、それだけではなく『重要な変化の担い手』と位置付けられています。

子どもたちがSDGsについて

学び、人権やジェンダー平等、平和と非暴力、地球市民の考え方など、持続可能な開発の実現のために必要な知識を身につけ、SDGsの実施に主体的に関わっていけるよう、ユニセフはサポートしています。

(事務局長 大友千佳子)



©UNICEF\_UN0351961\_Ochoa

\* 学校でSDGsを学ぶための教材があります \*

**私たちがつくる持続可能な世界**  
～SDGsをナビにして～

この教材では、SDGsの17の目標にかかわる国内外のさまざまな課題や取り組みをトピックとして紹介しています。興味・関心がある課題や取り組み、解決策など「これからの社会を、持続可能でより良いものとするためにはどうしたらよいか」を一緒に考える教材です。

毎年、全国の中学3年生全員に届けていますが、誰でも学習ができるように、日本ユニセフ協会のホームページからダウンロードできます。

↓ <https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/>

#### 持続可能な世界への第一歩

#### SDGs CLUB

子どもたちがSDGsのことを知ったり、課題について学んだりできる日本ユニセフ協会のサイトです。  
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>

ひとりで興味のあるページを見たり、調べ学習に役立てたり、おうちの人やお友だちと話しながら見ることができます。17の目標カードの一枚をめくってみると、現状の課題や実現のための方法がわかりやすく示されています。また、子どもたちの行動宣言を見たり、自分の行動宣言を投稿することもできます。



#### 夏休みユニセフ教室のご案内

ユニセフと世界の子どもたちを知ろう!  
自分のSDGs行動宣言をしよう!

#### 外国コインの仕分け ボランティア体験

日時/2021年7月31日(土)  
10:00~12:00  
場所/みやぎ生協文化会館  
ウイズ

※詳しくは、「宮城県ユニセフ協会」のホームページをご覧ください。



## 公益財団法人 MELONの活動

公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(Miyagi Environment Life Out-reach Network) MELONは、みやぎ生協・JA 宮城中央会・県漁協・県森連・日専連の県内で活動する協同組合が中心となって設立され、1995年12月に財団法人化し、2012年2月より公益財団法人に移行しました。MELONは、緑と水と食を通して地球と地球環境保全の活動を行なっています。会員数は個人432、法人55団体、任意団体9団体です。合計496です。(6/11 現在)

### ● みなさんも「うちエコ診断」を受診して、ぜひ家庭の省エネを！

MELONでは今年も、「うちエコ診断」を実施しています。

環境省の診断ソフトを活用し、家庭でのエネルギー使用量や電気機器の使用実態などをヒアリングして、どこから多くのCO<sub>2</sub>を排出しているか診断し、その人のライフスタイルにあったオーダーメイドの省エネアドバイスをするものです。

令和2年度の実施データによると、宮城県は全国の平均と比較して、一人当たりのCO<sub>2</sub>排出量が23kg-CO<sub>2</sub>/年多くなっており、用途別では「自動車」「暖房」「給湯」の順で多くなっています。

「省エネ」と聞くと、つい「我慢」と思う人が多いのですが、ムダを省いて暮らしを豊かにする省エネアイデアもたくさんあります。例えば・・・近所への買い物に自動車を使う代わりに、景色を見ながら歩くことで、季節の移り変わりに気づいたり運動不足解消になったりします。照明の蛍光灯を間引いたり、暗めの間接照明に代えることで、電気代の節約になる上に部屋がおしゃれな雰囲気が変わったりします。

令和2年度『うちエコ診断・

人気対策ランキング』は以下の通りです。

#### ▶第1位「冷暖房1時間短縮」

つつい長時間つけっぱなしにしてしまいがち。就寝や外出の30分前に止めると光熱費削減につながります。

#### ▶第2位「冷暖房設定温度の見直し」

着るものを変えるなど工夫をすると効果的です。1℃控えめにすると約1割光熱費・CO<sub>2</sub>排出量が減ります。でも無理は禁物です。

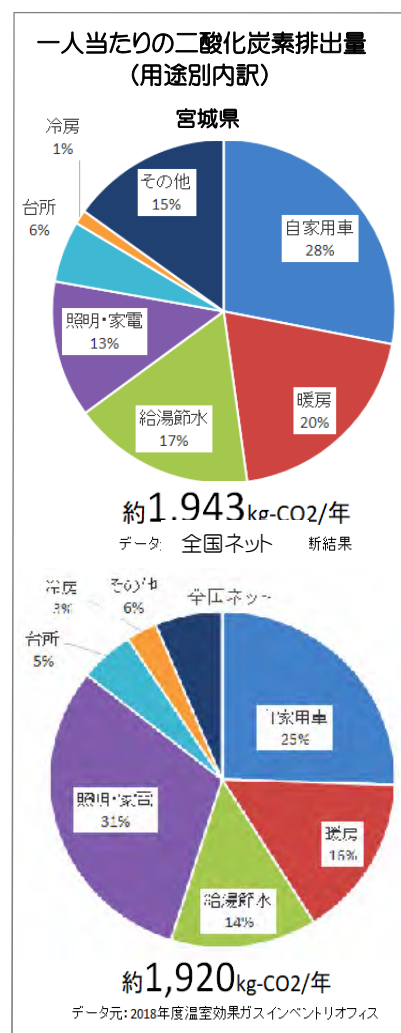
#### ▶第3位「シャワー1人1分短縮」

シャワーを16分(120ℓ)流すと浴槽1杯(200ℓ)分のお湯とほぼ同じ量になります。少し止めるだけでも大きな削減につながります。

私の家は光熱費使い過ぎ？どうやったら光熱費を減らせるのかもっと知りたい！など気になった方は、ぜひうちエコ診断を受診してください。省エネ・省CO<sub>2</sub>対策のエキスパートである「うちエコ診断士」が解りやすく解説いたします。

ウェブ会議システムを使っての診断も実施中です。詳しくは、「ストップ温暖化センターみやぎ」までお問合せください。

(事務局統括 小林幸司)



▼「うちエコ診断」はコチラまで

ストップ温暖化センターみやぎ

MELON 事務局内

\* TEL:022-301-9145

\* FAX:022-219-5710

\* e-mail:  
stop\_gw@miyagi.jpn.org



消費者のくらしと権利を守る  
**第42回宮城県生協組合員集会**

宮城県内16の会員生協組合員が集まり  
私たちのくらしをとりまく様々な問題をテーマとして  
参加者全員で共有し  
広く県民に伝えるために開催しています



リレートーク

〈テーマ〉

- ①東日本大震災から10年
- ②みやぎ子ども食堂ネットワーク
- ③核兵器禁止条約発効

コンサート

〈演奏〉

仙台チェンバーアンサンブル  
(室内音楽ユニット)

**音楽でみんなを  
笑顔に!!**

会員生協  
活動報告

コロナ禍の中で  
工夫して行っている  
組合員活動について

2021年**9月29**日(水)  
10:00~12:00

**仙台サンプラザホール**

仙台市宮城野区榴岡 5-11-1

※オンライン配信併用での開催

プログラム

- 10:00~ 開会・主催者あいさつ
- 10:15~ 会員生協の活動報告
- 10:25~ リレートーク
- 11:10~ コンサート
- 11:50~ 集会決議採択
- 12:00~ 閉会

**集会テーマ(案)**

- 一、消費税負担の軽減、格差社会の是正のため、貧困対策や社会保障の充実を求めます。
- 一、復興の実情をふまえた、くらしの再生・再建のための施策の実施を求めます。
- 一、すべての原発を廃止し、自然エネルギーを中心としたエネルギー政策への転換を求めます。
- 一、福島第一原発のアルプス処理水は、海洋放出を行わず、関係者、国民の理解が得られる別の方法で処理することを求めます。
- 一、灯油の適正価格と安定供給を求めます。
- 一、憲法を守りくらしに生かすこと、核兵器禁止条約に署名・批准することを求めます。

主催 宮城県生活協同組合連合会